



# 学校だより

10月号(第573号)

令和5年9月29日

横浜市立すみれが丘小学校

## 学校教育目標

〈す)すんで (み)みんなで (れ)いをつくして (か)んぱりつづけて (お)もいあって (か)がやきつづけるすみれっ子〉  
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

## 自己肯定感を高めるために

～今、大人にできること～

校長 栗原 信一

『安心、安全で豊かに生活できるすみれが丘小学校』これは私がいつも心に留めていることです。

安心、安全とは何でしょうか。それは、皆が共有し、理解しているルールやきまりを一人一人が行動に移す中で、ある秩序が保たれている状況の中にあると思います。「おはようございます!」のあいさつが飛び交うクラスは自然と安心感も生まれ、一日の始まりを明るくしてくれます。時間を守って行動できるクラスには秩序が生まれます。学校では8時10分～20分に校門をくぐることになっています。8時25分には教室の席に着き、朝の学びが始まると自然と一日のスイッチが入ります。整った環境は、気持ちのよいものです。移動教室の空き教室がきれいに整理整頓されているクラスは、教室へ戻ってきたとき気持ちよく次の学習に取り組むことができます。そんなちょっとしたあいさつや時間の意識、環境整備が安心、安全な学校生活に結びついていることは間違いありません。

それでは、児童が最も安心、安全を感じられる瞬間は、どんなときでしょうか。それは、児童一人ひとりが大切にされていると感じるとき、すなわち温かな人的環境の中で育まれているときのように思います。先日ある研修で日本の子どもたちの自己肯定感は、国際比較で最低水準という調査結果を耳にしました。他者からの評価に不安を感じ、自分を素直に表現することをためらい、なかなか自由に自己表現できないことが起因しているのではないかと語られていました。それでは、自己肯定感を高めるためには、どうしたらよいのでしょうか。

そんなことを考えている中で以前勤務

していた学校の研修で呼び出した、不登校・ひきこもり支援をされている滝田衛先生の詩を思い出しました。この詩を読むと私たち大人の姿勢が子どもたちの成長に大きく影響していることに気付かされます。親や先生に認められた時、友達に励まされたとき、子どもたちは自分が大切にされていると感じるものです。そんな私も、

批判ばかりされた子は 非難することを覚える	殴られて大きくなった子は、 力に頼ることを覚える	笑いものにされた子は ものを言わぬことを覚える	皮肉にさらされた子は 鈍い良心の持ち主となる	激励を受けた子どもは 自信をもつことができる。	寛容に出会った子どもは 忍耐を覚える。	賞賛を受けた子どもは 評価することを覚える。
--------------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	------------------------	---------------------------

も、小学校時代の恩師との出会いの中で、自分が大切にされているという温かい気持ちをもちました。厳しい先生でしたが大好きな先生でした。人が気付かないような、また目には見えないような小さな自分の頑張りをよく見て、認めてくださったからからだと思います。先生に認めてもらえる、それだけで十分でした。この詩の特に後半部分は、私たち大人に課せられた宿題のように思います。私も教職員と共に子どもたちの自己肯定感を高めるために、温かく寄り添い、そして励ましていきたいと思ひます。

さて、10月14日(土)は、いよいよ第48回すみれ運動会です。今年度は、観覧人数に制限を設けず実施します。つりさげ札、腕章、参加シールを提示いただき、入校いただければと思います。ここ数年は、徒競走、演技の2種目でしたが、今年度はブロック学年競技も加わりました。たくさんのご声援と子どもたちへの励ましをお願いいたします。児童の練習の様子は、適時、学校ホームページでも配信中です。ぜひご覧ください。



秋のさわやかな一日を皆さんで楽しみましょう。10月もよろしくお願ひいたします。